



施策の概要

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

基本政策 (1層) 市民生活を豊かにする環境づくり

政策 (2層) 緑と水の豊かな環境をつくりだす

施策 (3層) 多摩川の魅力を活かす総合的な取組の推進

直接目標 多くの市民が「憩い」「遊び」「学ぶ」多摩川の魅力を高める

主な事務事業

多摩川プラン推進事業

多摩川市民協働推進事業



実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

成果指標	多摩川の魅力を活かす総合的な取組の推進			
算出方法	市民アンケートにおいて、多摩川を「利用したことがあり、魅力を感じる」と回答した人の割合			
指標の考え方	河川敷の運動施設や多摩川を訪れる市民の利便施設の再整備、河川敷利用のマナーアップに取り組むなど多摩川が市民の身近な存在となるように、魅力向上の取組を進めている。多摩川の利用状況や魅力の意識を指標とすることで、「多摩川の魅力を活かす総合的な取組」の効果を測ることができる。			
指標の目標値	37.7% (H27(2015))	38%以上 (H29(2017))	39%以上 (H33(2021))	40%以上 (H37(2025))
目標値の考え方	H27に実施した市民アンケートの郵送アンケートの結果に改善率を加算し、5の倍数に近い数値をH37までの目標値とする。			

※ H28のアンケート結果を踏まえて、第2期実施計画策定時に目標を上方修正しました。

- H33(2021)「39%以上」→「41%以上」
- H37(2025)「40%以上」→「42%以上」

※2 第2期実施計画から、新たな成果指標を追加(渡し場イベントの参加者数)



川崎の母なる川・多摩川

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 「川崎の母なる川・多摩川」は、古くから市民と関わりが深く、川崎の骨格を形づくりまちを発展させてきた歴史的・文化的資源であるとともに、首都圏における貴重な自然環境と多様な生命が共存する空間です。
- 多摩川緑地は東京オリンピックを契機に、健康と体力の維持増進の一環として、一級河川敷開放政策がとられたことに始まり、川崎市が国から占用許可を得て運動施設等の整備を行ってきました。
- 社会情勢や市民のニーズの変化に合わせ、まちづくりに川崎のすぐれたポテンシャルと多摩川との融合が期待されており、環境資源を最大限に活かしたにぎわいの場の創出が求められています。



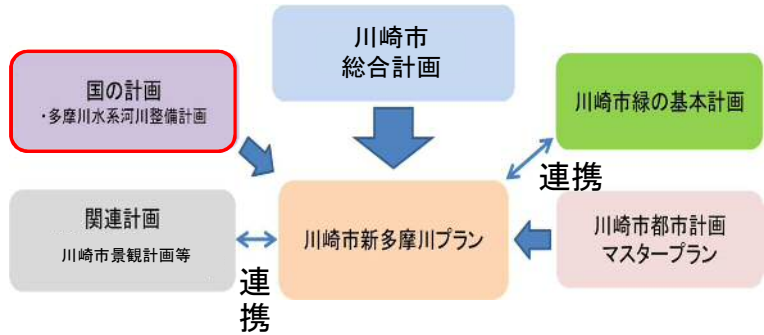
川崎市新多摩川プラン

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 川崎市では「多摩川の魅力を活かす取り組み」として平成18年度に「多摩川プラン」が策定され、その後、市制100周年の平成37年に向けて、平成27年度に「新多摩川プラン」として改訂を行いました。



新多摩川プランの位置づけ

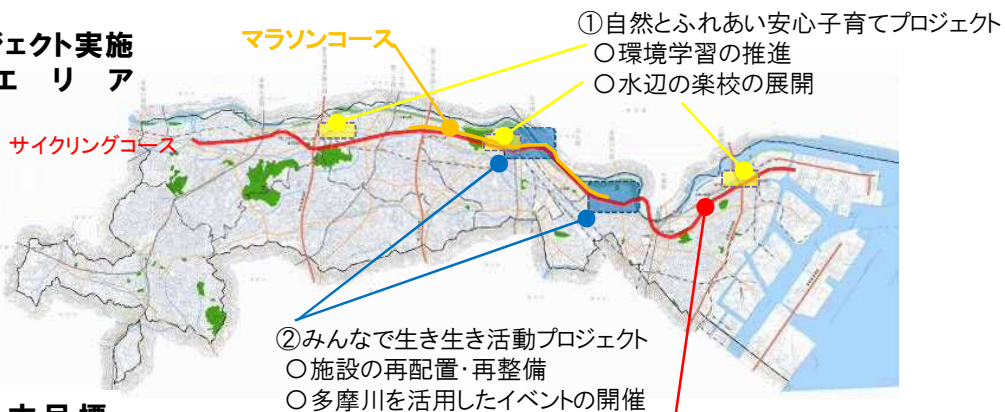


川崎市新多摩川プランの重点プロジェクト

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 新多摩川プランでは、確実に推し進めていくため5つの基本目標、30の推進施策を設定し、なかでも、複数の事業に関連し、早期に課題解決が可能で優先的かつ重点的に取り組んでいくエリアで、重点プロジェクト事業を展開しています。

重点プロジェクト実施対象エリア



5つの基本目標

- I 自然と調和した美しい多摩川へ
- II 多摩川を知り災害から市民を守る
- III 子どもの生きる力を育む場の創造
- IV 多摩川とともに歩むみんなの暮らし
- V つながり深めて魅力的な流域へ

- ③多摩川の風景とともに歩むプロジェクト
 - サイクリングコースの充実
 - 流域自治体等との協働・推進

多摩川の魅力を活かす重点プロジェクトの概要

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 多摩川プランでは「川とふるさとの再生・市民協働による多摩川ライフの創造」を基本理念として、市民共有の大切な財産である多摩川を改めて見つめ直し、環境資源を最大限に活かしたにぎわいの場(憩い、遊び、学び)の創出を目指しています。



多摩川プラン推進事業①

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 多摩川河川敷の運動施設等は、スポーツ・レクリエーションの場として利用され、多くの市民が集う場として、快適な河川空間の創出や運動施設の充実、利便性の向上の取組を進めています。

再整備重点エリア① 等々力・丸子橋地区の再整備(平成20~28年)

憩い 遊び

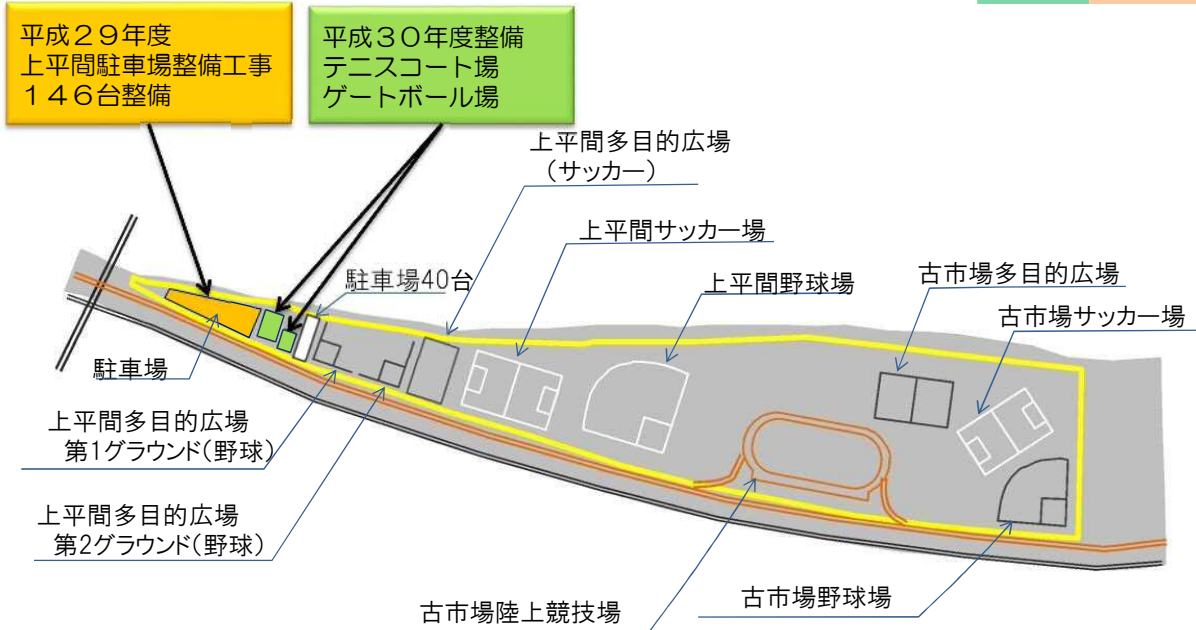


多摩川プラン推進事業②

概要 背景 取組 成果 まとめ

再整備重点エリア② 上平間・古市場地区の再整備 平成29年度以降

憩い 遊び



多摩川プラン推進事業③

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 回遊性の向上を図り、流域のつながりを確保するため、サイクリングコースの延伸整備を行っています。

憩い 遊び

サイクリングコース位置図



舗装整備箇所



橋梁整備イメージ

《平成29年度実績》
未整備区間の舗装整(600m)を行う。
ニヶ領用水を渡る橋の詳細設計業務

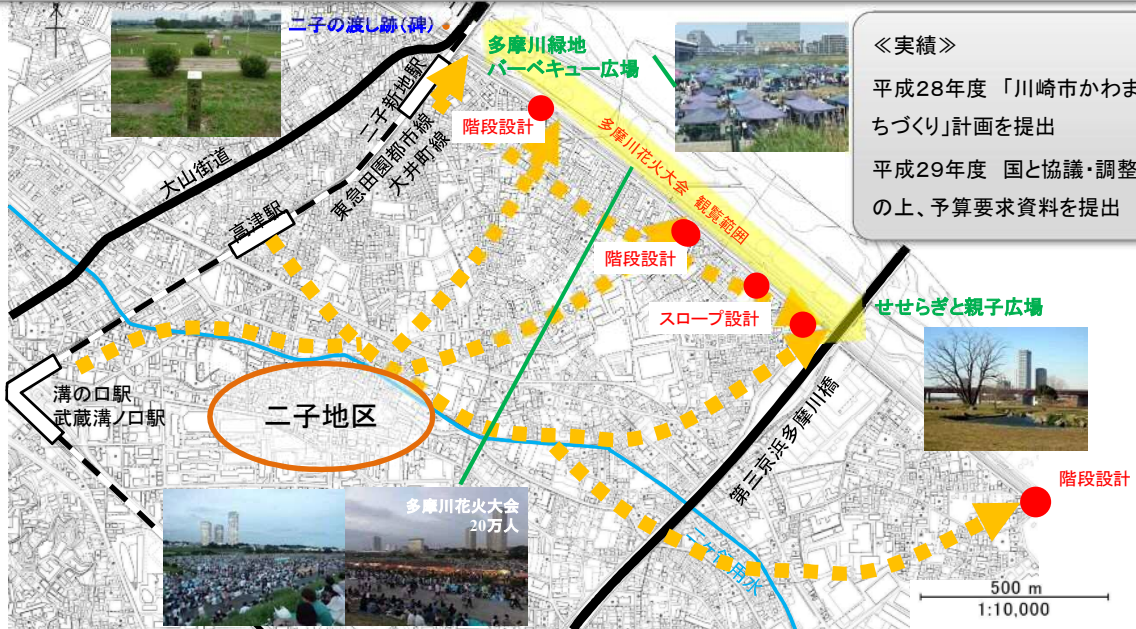
30年度完成予定

多摩川プラン推進事業④

概要 背景 取組 成果 まとめ

国と連携した「川崎市かわまちづくり」事業の推進

- 階段、スロープ、低水護岸といった国による整備と連携することで、これまで川崎市で整備を行ってきた施設を活用し、まちづくりと一体となった回遊性の高い水辺の回廊を形成することで、魅力ある水辺空間の創出を図っています。



多摩川市民協働推進事業①

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 流域自治体や市民団体等との協働により、多摩川を活用した環境学習や、体験活動の場としての活用を図っています。また、多摩川の魅力の発掘に努めるとともに、その魅力を次世代の子供達へ継承し、より多くの市民に多摩川の持つ魅力を感じとれるような様々な取組を進めています。



多摩川市民協働推進事業②

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 流域自治体、市民団体や学校等との協働により、多摩川や二ヶ領せせらぎ館、大師河原水防センターといった施設を活用して、環境学習の一環として、生き物観察、源流体験などを行っています。また、子ども達が川に親しむ自然体験活動を推進し、多摩川において学ぶ機会を創出するため、「かわさき」「とどろき」「だいし」と、3校の水辺の楽校がそれぞれの活動フィールドを活かした活動を行っています。

学び



二ヶ領せせらぎ館

NPO法人による管理運営を行い、市内の小中学校や市民団体等を対象に、多摩川の自然や歴史・文化等、多摩川の流域の魅力を広く市民に知らせるための環境学習等を、年間を通じて開催しています。



大師河原水防センター

(平成29年度の主な活動)
 ・歴史講座
 ・生き物観察会
 ・シジミの浄化実験
 ・エコクラブ
 ・エコカップいかだ下り
 ・夕涼みコンサート
 ・鮎の放流会
 ・アサクサノリ生育調査



かわさき水辺の楽校
H29参加者数：432人



とどろき水辺の楽校
H29参加者数：2,322人



だいし水辺の楽校
H29参加者数：468人

平成29年度の主な活動

4月 開校式 魚釣り
 5月 生田緑地探検
 6月 大掃除と魚釣り
 7月 鮎の唐揚げ大会
 8月 がさがさ
 9月 二ヶ領用水で魚つかみ
 2月 土手の散策と野草観察、採取会

4月 開校式 植物観察
 5月 川の安全教室
 7月 多摩川教室
 8月 カヌー教室
 9月 川の安全教室
 10月 昆虫観察
 11月 ゴミ拾い草木染
 1月 凧揚げと雑煮
 2月 焼き芋大会

4月 開校式 干潟観察
 5月 干潟観察会
 6月 合同干潟観察会
 8月 ロープワーク教室
 9月 ハゼ釣り教室
 11月 野草と観察会
 12月 クズあみ教室
 1月 凧つくり教室
 3月 自然観察会

多摩川市民協働推進事業③

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 二子橋周辺に、平成23年4月から有料のバーベキュー広場として開設しており、ゴールデンウィークなど繁忙期には1日におよそ5,000名、年間15万人を超える来場者があります。丸子橋周辺については、駐車場の有人化や地域と協議をしながら不法投棄禁止看板の設置等を行い、一定の迷惑行為抑制の効果がみられておりますが、引き続き迷惑行為軽減の対応を行っています。
- 多摩川渡しの復活として、丸子の渡し復活協議会や渡し場復活サミットを開催し、「丸子の渡し」「二子の渡し」を行っています。

多摩川緑地バーベキュー広場(二子橋周辺)



セッティングや後片づけが不要なプレミアムコーナーの設置等を行い、平成29年度の利用者は133,879名となりました。バーベキュー広場の管理運営にとどまらず、二子新地駅前の清掃活動や滞留者への声掛け、商店街マップの作製等の地域貢献や地域還元活動も積極的に行っています。また、平成30年2月には、川崎キャンプを行い、200名を超える来場者がありました。地元野菜の販売・高津区内の飲食店の出店・ライフバックの体験・まき割りなど多くのイベントを実施いたしました。

遊び 学び

渡し場復活サミット



パネルディスカッション

平成29年度は、丸子の渡し、二子の渡しともに天候不良により、残念ながら中止となってしまいましたが、国や復活協議会と「渡し場復活サミット」を開催しました。

サミットに先立ち、第1部として高津シルバーガイドの会の案内で二子の渡しを訪ねるまち歩きを実施しました。



丸子の渡し発表

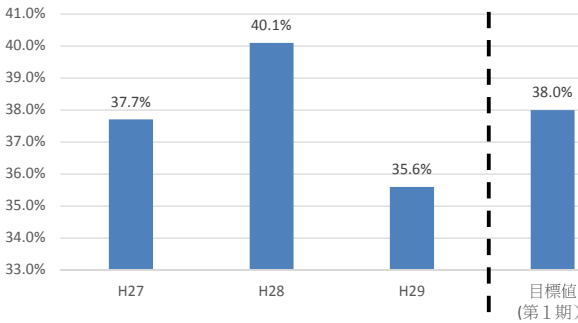
丸子の渡し、二子の渡しに加え、宇奈根の渡しも参加し、基調講演・活動発表・パネルディスカッション等が行われました。

成果指標の達成状況(目標未達成)

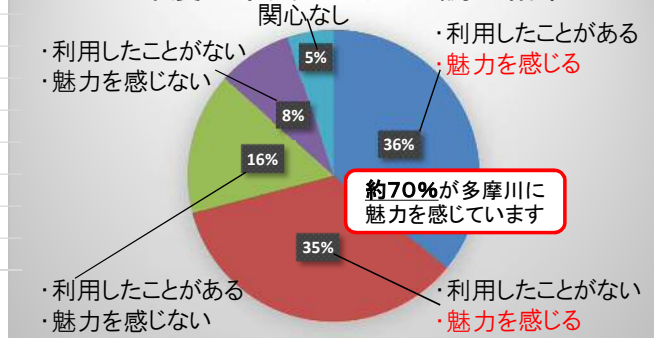
多摩川に魅力を感じ、利用したことのある人の割合

- 多摩川に魅力を感じ、利用したことのある人の割合については目標を下回りました。今後も「新多摩川プラン」に基づき、多摩川の魅力を高めるとともに、多摩川の利活用による水辺の賑わい創出を目指します。

市民アンケート調査結果の推移



H29年度の市民アンケート調査結果



- 約70%の人が多摩川に魅力を感じているものの、**実際に多摩川を利用したことがある人は約半数**となっています。



- 多摩川を利用したことがない人にも多摩川を利用してもらえよう、今後も「新多摩川プラン」に基づき、多摩川の利活用による水辺の賑わい創出を目指します。

成果指標の分析

多摩川に魅力を感じ、利用したことのある人の割合

- アンケートについて、**区別のクロス集計の結果をみると、多摩川に面している中原区、高津区、多摩区は利用率が高いことがわかりました。**
- **麻生区、宮前区**といった多摩川に面していない区は利用率が低い傾向がありました。
- **川崎区、幸区**も利用率が低い傾向があり、魅力を感じない方の意見では、区内に多摩川緑地の施設が少ない、アクセスが悪い、治安が心配などの意見が見受けられました。

区	利用したことがある・魅力を感じる (%)	利用したことがある・魅力を感じない (%)	利用したことがない・魅力を感じる (%)	利用したことがない・魅力を感じない (%)
川崎区(215)	21.9	20.0	34.9	14.4
幸区(168)	32.7	17.3	36.3	8.9
中原区(249)	48.2	13.3	28.9	6.0
高津区(212)	43.9	17.9	26.4	5.7
宮前区(242)	32.2	12.4	40.9	8.3
多摩区(205)	45.4	16.6	31.2	3.9
麻生区(200)	23.5	13.0	44.5	11.0

- 多摩川を利用したことがあり、魅力を感じる
- 多摩川を利用したことはあるが、魅力は感じない
- 多摩川を利用したことはないが、魅力を感じる
- 多摩川を利用したこともないし、魅力も感じない

その他成果(数値で把握できる補足指標)

概要 背景 取組 成果 まとめ

渡し場イベントの参加者数 ※第2期から成果指標としている

- 多摩川には古くから多摩川兩岸を往来するための渡し場が数多くあり、このような貴重な歴史的文化遺産を子供達に伝承していくため、「渡し場イベント」を開催しています。
- 多摩川を活用したイベント等は、参加者数が天候等の気象条件に左右されやすく、平成29年度は渡しイベントや多摩川花火大会など、イベント開催時の天候に恵まれなかったことから、アンケート結果が対前年減となった外的要因と考えられます。

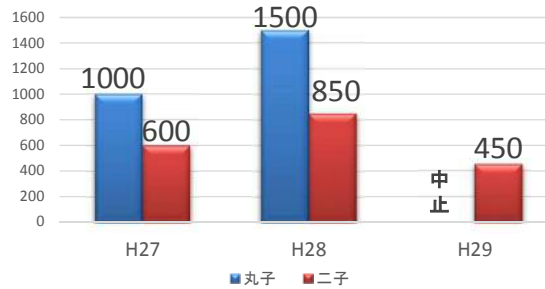


1953年 丸子の渡し



渡し場イベント

渡し場イベントの参加者数



多摩川花火大会

※H29年度の丸子の渡しイベントは天候不良により中止
 ※H29年度の二子の渡しは天候不良により渡し中止。お祭りのみ開催

その他成果について

概要 背景 取組 成果 まとめ

多摩川の利活用による水辺の賑わい創出に向けたイベント

- 多摩川の利活用による水辺の賑わい創出に向け、民間活力による更なる価値の向上として「水辺で乾杯 in 川崎」や「XTERRA 川崎」等を新たに実施するとともに、既存のイベント等の工夫や、連携方法の工夫を行いました。



水辺で乾杯 in 川崎
水辺に赴ききっかけづくりを行いました。



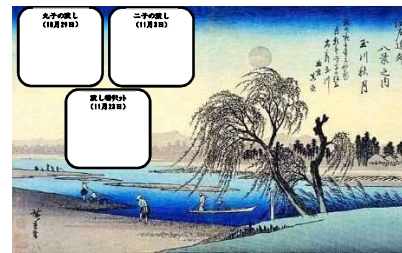
大学生観光まちづくりコンテスト
観光まちづくりプランを競い合いました。



XTERRA 川崎
多摩川でミニトライアスロンを行いました。



夏休み多摩川教室
地域と連携し、休憩・飲食スペースを水辺に設置しました。



多摩川渡し スタンプラリー
3つの渡しイベント合同でスタンプラリーを開催しました。

その他成果について

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 昭和61年度に創設され、平成29年度で32回目の開催となる、「手づくり郷土(ふるさと)賞【大賞部門】」を川崎市と、ニヶ領せせらぎ館を管理運営しているNPO法人多摩川エコミュージアムが受賞しました。

案件名

大賞部門
「多摩川エコミュージアムプランの推進」
人をつなげる森と川
～ニヶ領せせらぎ館をまちの広場に～



「手づくり郷土賞」とは

良質な社会資本と関わりを持つ地域づくりの優れた取組を表彰し、好事例として広く全国に紹介することにより、各地で個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が進むことを目的として創設された国土交通大臣表彰です。

施策の達成状況

概要 背景 取組 成果 まとめ

施策の達成状況

B 一定の進捗があった(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)

理由

- ① 多摩川プラン推進事業及び多摩川市民協働推進事業は、掲げた目標どおりに進捗しました。
- ② 多摩川に魅力を感じ、利用したことのある人の割合については、多摩川がより市民に身近な存在になるよう、多くの市民が「憩い」「遊び」「学ぶ」魅力向上の取組を進めてきましたが、天候不順によるイベントの減少や台風による施設未利用日の長期化等が重なったことなどもあり、目標達成には至りませんでした。

【施策の達成状況区分】 A 順調に推移(目標を達成)、B 一定の進捗があった(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)
C 進捗が遅れた(現状を下回るものが多くあった)、D 進捗は大幅に遅れた(現状を大幅に下回った)

今後の方向性

Ⅱ 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)

理由

- ① 多摩川プラン推進事業については、「新多摩川プラン」に基づき多摩川の利活用に関する施策を推進しているところですが、施設の再整備や回遊性の向上に向けた整備などを行うことによって、更なる魅力向上を図り、多摩川のポテンシャルを最大限に活用する取組を進めていきます。
- ② 多摩川市民協働推進事業については、多摩川を「ふるさとの川」として市民に愛される場とするために、民間活力の活用や地域・流域との連携といった継続した活動が必要であることから、今後も行政と市民が一体となった取組を進め、賑わいの創出を進めていきます。

【今後の方向性区分】 I 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)、Ⅱ 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)
Ⅲ あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい)、Ⅳ 事業構成に問題がある(抜本的な見直し等が必要である)



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市